

尼崎21世紀の森・尼崎の森中央緑地の森づくり

高木一字（アマフォレストの会）

はじめに

尼崎の臨海地域（国道43号線以南の約1000ha）において「森と水と人が共生する環境共生型のまち」をめざして「尼崎21世紀の森構想」が平成14年3月に策定されました。尼崎の森中央緑地は、その臨海地区の南西端、武庫川の河口東側に位置し、かつては製鋼所などの工場があった約29haの埋め立て地です。中央緑地は尼崎21世紀の森構想の先導整備地区として「生物多様性」をキーワードにした特色ある森づくりを進めています。

「アマフォレストの会」は、地域産の種子から苗木を育て、尼崎の森中央緑地の森づくりを行っている市民団体です。

尼崎の森中央緑地がめざす森

中央緑地をとりまく武庫川と猪名川の流域、六甲山系・北摂山系さらには大阪湾岸域を目標地域として、この地域内に存在している森や草原、またはかつて存在したと考えられる森や草原の豊かな自然の姿を手本にしています。単に高木となる植物を植えて森を作るのではなく、本物の森の姿を手本とすることで、様々な昆虫や鳥などの動物も生育することができる「生態系」として成り立つ森をめざしています。

また最も海の影響を受ける外周部には潮風に耐性の強い「ウバメガシトバラ群集」の森を育て、その内陸側には地域の気候条件に安定して持続できる照葉樹林の「コジイ・カナメモチ群集」の森を、人々がよく集まる芝生ひろば周辺は、定期的な伐採管理で維持する「コナラ・アベマキ群集」の明るい雑木林を、というように立地環境に応じた多様な森を創出します。こうして地域の豊かな生物多様性を創りだせるように計画しています。

地域性苗木を育てる

森をつくる苗木は、地域の遺伝子の多様性を守るため、目標地域の外からは持ち込みません。このような地域の遺伝子を持った苗木を「地域性苗木」といいますが、一般の苗木市場にはほとんど流通していません。そこで自分たちで目標地域の森へ出かけて、種子を採取し、種子から苗木を育てています。現在、中央緑地の育苗圃場では、約75種類の木本種の苗を育てています。発芽から約3年間、樹高約50cmを目安にポット苗を育て、森に植栽します。06年から約1万本の苗木を中央緑地に植栽しました。今後10年で20万本を植え、森を作る計画です。

森づくりの実験的試み

尼崎の森中央緑地の一部「はじまりの森」では森づくりの様々な手法を試して、生物多様性の高い豊かな森づくりの方法を実験しています。

・ 鳥散布の核（核森）の取り組み

木の実を好む鳥がやってくるように、はじめから実を付ける成木を植えた部分を作りました。木の実を食べた鳥が、フンをすることで周辺に苗を広げてくれることを期待しています。

・ ドングリ類の直播き

直根をだすドングリ類は、ポットではまっすぐな根を出さなくなります。シラカシ、スダジイなどのドングリを直接森にする場所に播種して、生育できるかどうかを観察しています。

尼崎の森中央緑地のように地域性苗木を用い、地域の生物多様性にこだわった森づくりは全国的にも先例がなく、分からないこともたくさんあります。実験的な試みを通して、これからの森づくりに活かします。



中央緑地の位置
左端の川が武庫川